

## 第28回 世界遺産検定 マイスター試験 講評 および 学習方法

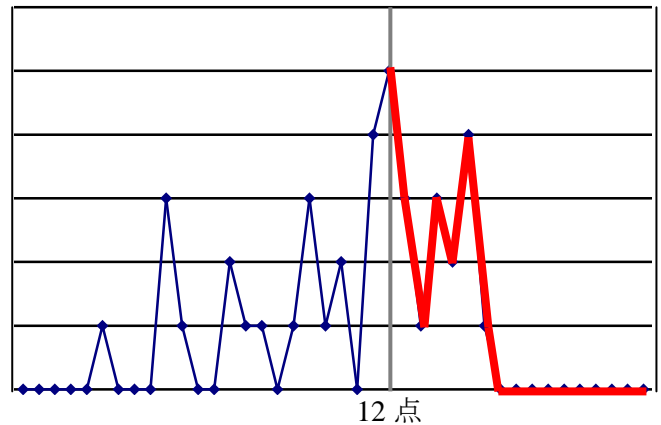
1. 実施概要    2. 認定点と分布    3. 問題    4. 総評    5. 各問の短評と学習法

### 1. 実施概要

検 定 日：2017年7月9日（日）  
検定会場：東京・名古屋・大阪  
検定時間：120分  
解答形式：論述形式（記述）  
申込人数：41名  
受検人数：39名  
認定者数：19名（認定率48.7%）

### 2. 認定点

認定点：12点（20点満点）  
最高点：15.0点  
最低点：3点



### 3. 問 題

1 次の語句を簡潔に説明しなさい。

1. 完全性
2. 京都ビジョン（2012年）
3. 文化的景観

2 世界遺産条約について、次の語句をすべて使って、400字以内で説明しなさい。なお、解答中の次の語句の使用箇所には下線を引きなさい。

文化遺産と自然遺産                      顕著な普遍的価値  
世界遺産基金                              教育・広報

3 『紀伊山地の霊場と参詣道』の「熊野古道」では、田辺市が自然・文化景観を守るために基金を設立し、バッファゾーンの公有化を目指す方針を決めた。遺産保護のために、プロパティやバッファゾーンなどを公有化することで考えられる、よい点と懸念される点について、『紀伊山地の霊場と参詣道』の事例を用いつつ、1,200字以内で論じなさい。

### 4. 総 評

近年のマイスター試験の受検者は問題への対策がよくなされており、特に1、2の解答の点数が高い傾向にあるが、今回も1と2は認定点に達している受検者が多かった。一方で、今回の問題は3に苦勞した受検者が多く、全体的に3の点数が例年よりも低い傾向にあった。資産の公有化を都市開発の観点から述べたり、開発の抑制の観点から述べたりするものが多く付加的な点での得点はあった反面、『紀伊山地の霊場と参詣道』の「熊野古道」の現状を踏まえて回答しているものが少なく、その点で点数が伸びていなかったように見受けられる。今回の問題は、遺産の継承という観点が重要で、その点について書かれている解答は点数が比較的に高かった。また、改行や段落あけなど文章としての体裁が不十分である解答も相変わらず少なくなく、その辺りの対策も求められる。

## 5. 各問の短評と学習法

1

**短評**：それぞれの語句を約 50 文字以内で説明する問題。比較的によく解けていた。「完全性」や「文化的景観」など、50 文字以内で説明するのが難しいようなものは、重要なポイントを押さえながら要約することができるかが鍵となる。点数が低かった受検者の中には、要素の羅列になっており説明が散漫になっているものが多かった。

**学習法**：このように少ない文字数で要約する場合、ポイントとなる語句をはずさないようにする。間違っていないが本質ではない点をいくら並べても説明としては不十分なので、学習の際には、**それぞれの語句の最重要ポイントがどこであるかを考えながら、キーワードを正しくつかむ**ことが重要である。

2

**短評**：指定語句を用いて重要なキーワードを説明する問題。及第点に達している受検者が多かった一方、キーワードを文章の中に入れる際に、それがなぜキーワードとなっているのかを踏まえずに、ただ入れているだけの受検者も多く、そのキーワードの世界遺産条約の中での意味や重要性を踏まえつつ記述している解答は点数が高かった。キーワードの入れ方によって、間違っていないけれど点数が低く押さえられてしまった解答もあった。

**学習法**：書く前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。「世界遺産条約」を説明するのに必要なキーワードを書き出し、それを組み替えながら全体のプロットを考える。問題中の**使用指定語句は、どのような解答が求められているかのヒント**であるといえる。学習の段階では、重要語句のキーワードやポイントを抜き出しておくとうい。また「世界遺産条約」の意義や目的、採択の背景なども理解し、それを限られた文字数と指定語句の中に加えられるよう、自分なりのまとめなおしが必要である。そのためには、**文章ではなく語句で覚えて**おき、問題に合わせて語句を組み合わせるようにするのが重要である。また、指定文字数の 8 割を書かないと減点の対象となる。

3

**短評**：世界遺産に関するテーマについて、独自の意見を論理的に論ずる問題。今回は、世界遺産の保護・保全と景観保護について、資産やバッファー・ゾーンの公有化の観点から考察する問題であった。公有化の是非については、正解があるものではなく、いかに是非双方の論点を整理して論述できているかが点数の分かれるところとなった。公有化することで観光被害が拡大するという論調も少なからず見られたが、その根拠が示されておらず、公有化と観光化を混同している受検者がいることが気になった。論述問題では、根拠を示すことが重要である。今回の問題は、現在の世界遺産地域で課題となっている、「遺産をどのように継承しているのか」という問題と関係しており、「熊野古道」が世界遺産登録当初から抱えていた林業との関係や、田辺市の取り組みの趣旨に触れている解答は点数が高くなった。

**学習法**：1,200 字というかなり長い論述問題の場合は、書き始める前に必ず**全体のプロットを作る**必要がある。その時に、**序論・本論・結論のスタイル**にするのか、まず**結論を書いてから後で説明するスタイル**にするのか決め、全体を見ながら、それに沿うようにキーワードなどの箇条書きでプロットを作る。それに肉付けする形で、書き上げてゆく。世界遺産条約から大きく外れた出題はないので、ある程度共通して使える要素も準備しておくとうい。論述問題では「**正解**」というものはない。いかに自分の意見を論理的に述べられるかが高得点の鍵となる。当然、**自分の考えを述べる時には、思い込みではない正確な情報で根拠を示す**必要がある。文字数指定があるので、最低でもその 8 割は必ず書くようにする。